

# 衣川作蔵

きぬがわ・さくぞう

藩校弘道館読書掛、藩校誠之館教授

## 経歴

生: 享和元年(1801年)

没: 明治14年(1881年)10月6日、享年81歳、妙政寺に葬る

文化6年(1809年)	8歳	衣川閑齋(倅)の養嗣子となる
文政2年(1819年)	18歳	勘定所詰
文政5年(1822年)	21歳	弘道館読書掛
文政13年(1830年)	29歳	弘道館会読掛月並講釈
天保2年(1831年)	30歳	弘道館纏
天保6年(1835年)	34歳	会読掛・館中講義
弘化3年(1846年)	45歳	儒者本役
弘化4年(1847年)	46歳	父衣川閑齋の死により家をつぐ
安政2年(1855年)正月16日	54歳	誠之館発会式において「論語・学而篇」を講じる
安政2年(1855年)	54歳	藩校誠之館教授
明治2年(1869年)10月	68歳	隠居

## 生い立ちと学業、業績

諱は廣任、号は琢章、通称は作蔵。

福山藩儒。享和元年(1801年)藩士沖与治兵衛武賈の子に生まれた。沖丈次郎の弟。

文化6年(1809年)衣川閑齋(倅)の養嗣子となる。

文政2年(1819年)勘定所詰を経て、文政5年(1822年)弘道館読書掛に任ぜられた。

文政13年(1830年)弘道館会読掛月並講釈。

天保2年(1831年)には鈴木宜山が江戸在番中に弘道館纏を勤めた。

天保6年(1835年)には会読掛・館中講義を命ぜられ、弘化3年(1846年)儒者本役、弘化4

年(1847年)父の死により家をついだ。

安政2年(1855年)正月16日、藩校誠之館発会式には、江木鱒水とともに『論語・学而篇』を講じ、引続き藩校誠之館教授をつとめた。

明治2年(1869年)10月隠居。

門田朴齋と親交があった。

和歌も嗜む。

「七十路を過ぎ来つるだに長き世を  
たのみなきまで身こそふりぬれ」。

「思ひきや我身ながらも青柳の  
いとながき世を今にへんとハ 八十翁廣任」

明治14年(1881年)10月6日没、享年81歳。福山北吉津町妙政寺に葬る。

嗣子は衣川肅太郎。 (出典1)～(出典5)

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、80頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典2:『福山藩の文人誌』、91・152頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典3:『郷賢録』、7頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典4:『福山藩の教育と沿革史』、145頁、清水久人著、鷹の羽本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典5:『福山の今昔』、155頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

2005年2月15日更新:経歴・本文●2005年3月25日更新:本文・出典●2006年6月23日更新:タイトル●2007年9月26日更新:タイトル・経歴・関連情報●2008年1月31日更新:経歴・本文・関連情報削除●2008年8月19日更新:本文●2010年3月18日更新:本文・出典●